



編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692(住所記入不要)

☎0276-88-5511(代表)

☎0276-47-5007(企画課直通)

☎0276-89-0136

☒ <http://www.town.ora.gunma.jp>
☒ koho@town.ora.gunma.jp

〈第五十九回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



館林市にある分福茶釜で有名な茂林寺。本堂の横には、守鶴堂というお堂があります。(写真は、館林市堀工町にある茂林寺で撮影)

高源寺の和尚さん

邑楽町に狸塚という名の大字がありま
す。狸塚と書いて「むじなづか」または「む
じなつか」と読ませます。なんだか化かさ
れたような地名です。

その狸塚の高源寺というところに、高源
寺という、分福茶釜で知られる茂林寺の
末寺があります。昔この寺に大層優しい
守鶴という和尚さんがいました。

村に死人ができて、檀家の人が使いで
葬式の連絡に行くと、和尚さんは本堂の
ご本尊様に向かってお経を上げていまし
た。用事を申し上げようとすると、和尚さ
んの方から「ご苦労さん。どここのだれ
だれさんは昨夜亡くなりました。お気
の毒でしたなあ」と話しました。

使いの者は、和尚さんはずいぶん早耳
だな、と思いつつも、葬式の打ち合わせ
をして帰りました。打ち合わせの間、和尚
さんは愛用の大きな茶釜でお湯を沸かし
て振る舞いました。

葬式がある度に、使いの者が寺に上
がって和尚さんに会うと、同じように和
尚さんの方から話しかけられるので、檀
家の者たちは「和尚様はただ人ではない。
仏様の生まれ変わりかも知れない」と噂
をし、偉い和尚さんだと尊敬されていま
した。

檀家のある男が「和尚さんは早耳だそ
うですが、誰から死人の話の聞くんです
か」と尋ねると、和尚さんは得意になって
「檀家の人が死ぬと、その人が庫裏の裏戸
をたたいて、自分の声で知らせに来るん
だよ」と答えました。檀家の人たちはます
ます不思議に思いました。

和尚さんは檀家の言うことをよく聞いて
くれましたが、ただ一つ「お寺に来る時
には決して犬を連れて来ないでくれ」と
厳しく言っていました。

ある日、檀家の若者が用事でお寺を訪
れると、和尚さんは居眠りをしていまし
た。あまりによく寝ているので、様子を見
ていると、衣の下にしっぽが出てくるよ
うです。若者は驚いて家に逃げ帰りまし
た。そして若者は「和尚さんには、しっぽ
がある」と言いふらしました。

村人はまさかと思いましたが、これを
聞いた意地の悪い人が、和尚さんが禁じ
ている犬を連れてお寺に行きました。す
ると、犬は和尚さんの姿を見ると、たちま
ちほえたてました。驚いた和尚さんは、犬
に頭でもかまれては大変とばかり、とっ
さに愛用の茶釜を取り、これを頭にか
ぶって森の中を、茂林寺の方へ逃げ去り
ました。犬を嫌った守鶴和尚は、あるいは
狸の化身ではなかったろうか、といわれ
ています。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



嵐の前に
(中央公園)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶木々の緑がだんだんと濃くなっていく中、私は毎日国道354号を使用
して通勤しています。走行途中、ウインカーも出さずに割り込みをする車
や、猛スピードで走り去る車がちらほら。ヒヤッとした経験があるのは私
だけではないはずです。どんなに急いでも到着時間はそこまで変わらない
のではないのでしょうか。▶以前、子ども番組で「走っても歩いても地球
のスピードは同じです〜焦ってもものんびりでも、ちゃんと明日は来るの
です〜」という歌が流れていましたが、運転だけでなく人生においても大
切なメッセージが込められていると思いました。▶何かと忙しく過ご
してしまいがちな毎日ですが、自然の流れに身を任せ、鼻歌なんかを口ず
さむ位の方が、案外うまくいくような気がする今日この頃です。(久保田)

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードを
ご利用ください。読み取りができない場合は
URLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。